

リハ医がいかに札幌の真ん中で地域包括ケアシステム構築にかかわるか、その模索と実際

札幌市医師会
札幌漢仁会リハビリテーション病院

橋本 茂樹

私は、一リハビリテーション医です。いま、札幌の中央区で一人もがいております。

リハビリテーション医を志したのは今から30数年前、まだリハビリテーションという言葉が世に広がっていませんでした。医学部にリハ講座があったので、医学部の専門課程でリハビリテーション医学という講義がありました。これって、外科とか内科といった臓器を見る医学とはかけ離れており、医学なの!? ってちょっと疑問に思いました。しかし、何らかの疾患で障害を持った人を、原因疾患の管理、そしてそれによって引き起こされた障害の軽減に努め、その人生の背景に踏み込んで、主体性のある新しい生活スタイルに導くアプローチに惹かれ、大学を出るときにその道に進むことに決めました。もともと、人間観察や人間の生きざまに強い関心があったからだと思えます。

リハビリテーションといっても、多面体であり医学的リハビリテーションもあれば、社会的関わりの中でのリハビリテーションもあります。時には職業的だったり、教育的だったり。求めるものは「人間の全人的な復権」です。医学的リハビリテーションも病院で完結するわけではありません。自宅に戻られそこで主体的で自立した生活を送ってもらうよう多方面に対する働きかけも必要です。それは、その人が戻られた地域そのものに大きく左右されます。地域が障害を持った方をどう支えてくれるのか、その地域のリハ力が問われます。よって、私たちは、まちづくりにも踏み込む必要があります。

地域リハビリテーションという言葉を開いたことがあるでしょうか。リハビリテーションという土台でのまちづくりです。地域包括ケアの概念にかなり近く、障害の軽い人から重度の人まで地域で支えていけるまちづくりを意味します。

当院は2017年6月に札幌市中央区の桑園地区のほぼ真ん中に開院しました。構想を展開し開院まで多くの問題解決のために10年の年月が必要でした。まだ開院2年が過ぎたりリハビリテーションにほぼ特化した新しい病院です。この桑園を中心とし、中央区、札幌市でどんなりハビリテーション医療を提供し、まちづくりを展開できるのか、当院に課せられた大きな役割であると考えております。

さて、札幌は2040年に後期高齢者が最大となり、介護必要度、医療必要度も最大となるとデータが出ています。特に中央区・桑園地区では今後人口減少はほとんど進みませんが、ますます高齢化が進む地域です。2025年問題をまずクリアし、2040年に向けてリハビリテーション専門病院としてどうしていったらいいのか。いろいろとトライアルを重ねています。

中央区は札幌市医師会で中央区西支部と東支部に

分かれています。これだと中央区という括りで活動するときに非常に障りが来るので、両支部の支援をもらい中央区にある6つの回復期リハビリテーション病棟を持つ病院を組織化し、中央区リハビリテーション病院連絡会を立ち上げることができました。6病院とも協力的であったのが幸いでした。活動ベクトルを高齢者の運動支援と栄養管理支援とし、その両面から中央区の地域包括ケアシステムの構築支援にかかわることにしました。運動と栄養は切り離せません。地域でも高齢者を少しでも元気にするためには栄養管理がベースとなると考えています。そしてまず、手掛けたのが各病院で出している嚥下調整食のコード化です。コードは2018年の診療報酬改定でも提示があった日本摂食嚥下リハビリテーション学会から出された「嚥下調整食分類2013」を基とし、各病院で出しているいくつかの嚥下調整食のそれぞれがそのどのコードに当たるかを明示してもらいました。目的はこれによって、地域連携における食の連携での齟齬をなくすことです。中央区の多くの病院から協力が得られました。と同時に食支援チームを立ち上げその中に栄養士部会を作りました。在宅や施設、病院等で働いている栄養士さん達の顔が見える関係を作り、栄養面での活動で地域でのネットワークの一步を踏み出しました。

また、運動面での地域支援は、地域包括ケアシステム構築の旗艦となる地域包括支援センターを支えることが重要と考え、定期的（2カ月に1回）に中央区にある3つの支援センターと連絡会を持つようにしました。地域のリハニーズを吟味し、その要望に少しずつ答えていければと考えています。また各支援センター下の介護予防センターとも協力関係をはかり、自主活動サークル育成にもリハスタッフの派遣や場所の提供等々、さまざまな点から協力することになりました。そのために、運動支援チーム（リハスタッフ）を作り、札幌シルバー体操やほかの体操のノウハウをそこに貯めて、それぞれの自主活動サークルにマッチした体操を指導できるようにしていきたいと思っています。

地域包括ケアシステム構築は、その地域の特性に応じた形で成されるべきですが、これから強まる都市部の高齢化に対処できるように、この中央区で行っていることが、都市部でのそのモデルになればと考え、今、活動しております。地域包括ケアシステムは地域のケアネットの構築です。このネットを多層性に張り巡らせ、よりハッピーな「在宅時々病院」を可能とする地域づくりに今あくせくと汗を流しております。

